

平成 22 年度

事業所番号

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 年間原油換算使用量1,500kL以上の事業所（Cの事業所を除く） C 検討中 （例：3年度連続年間原油換算使用量1,500kL以上の事業所）
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	東洋インキ製造株式会社 川越製造所		
所在地	埼玉県川越市大字中福字松峯286		
直近3年のエネルギー 原油換算使用量(kℓ)	21年度	20年度	19年度
	7,699	8,011	8,866
産業分類名（中分類）	化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要 (事業内容、従業員数、 敷地面積、延べ床面積等)	事業内容：塗料、粘接着剤、合成樹脂、塗工材料及び 着色剤に関わる製品の製造 従業員数：553人 敷地面積：144,363m ² 床面積：60,174m ²		
商標又は商号			

(3) 地球温暖化対策推進者（事業所に選任者がいる場合）

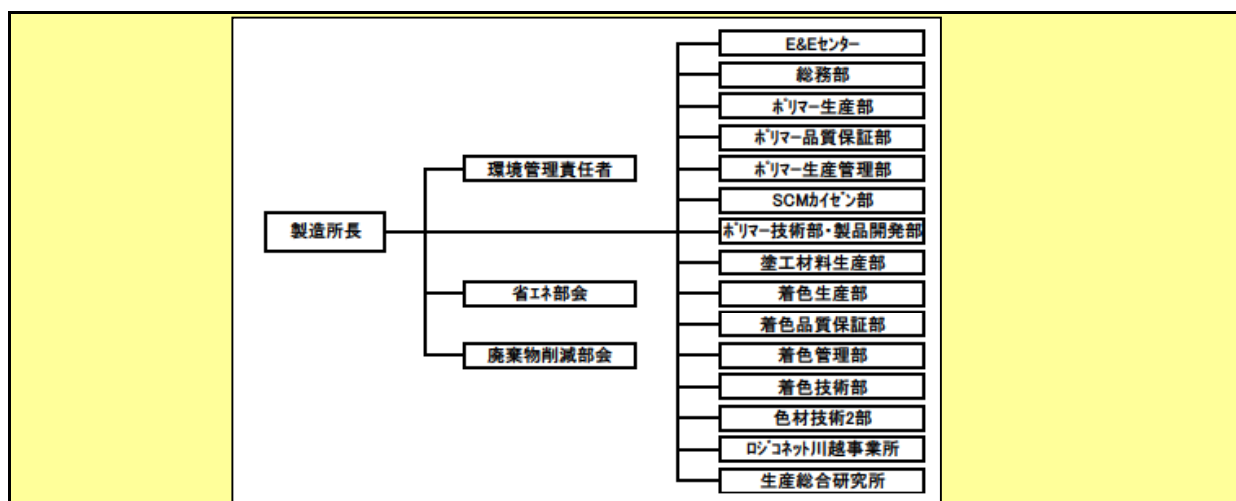
所属部署	電話番号

2 事業所の地球温暖化対策推進における基本方針（事業所で定めている場合）

全社的な環境・省エネ方針に基づき、当製造所における具体的な省エネ・省材方針を定め、省エネ部会を軸とした推進を図っている。

1. ガスストーブシステムの効率化：排熱の有効活用による蒸気ボイラー運転、温水回収を実施し、重油の削減に努める。
2. 蒸気ロスの低減：トラップの交換、蒸気配管保温材の修復、蒸気元バルブの開閉管理により蒸気ロスを図る。
3. 未利用エネルギーの活用：生産活動から発生する廃溶剤をバイオ燃料としたボイラー稼働率を上げる。
4. 生産性向上：生産計画の適正化と工程改善・スケールアップ・収率を総合的に改善することにより、エネルギー削減を図る。

3 事業所の地球温暖化対策における推進体制（事業所で定めている場合）



4 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 削減目標

計 画 期 間		22 年度	～	26 年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	(必須) 平成14年度(2002年)～平成16年度(2004年)の連続3ヵ年のCO ₂ 排出量の平均値21,938t-CO ₂ を基準として、平成22年度(2010年)から平成26年度(2014年)までの5年間の合計で27,490t-CO ₂ (基準排出量に比較して、年平均5,500t-CO ₂ 、25%)を削減する。		
	非エネルギー起源CO ₂	(該当する排出がある場合は必須) 平成14年度(2002年)～平成16年度(2004年)の連続3ヵ年のCO ₂ 排出量の平均値11,870t-CO ₂ を基準として、平成22年度(2010年)から平成26年度(2014年)までの5年間の合計で35,950t-CO ₂ (基準排出量に比較して、年平均7,190t-CO ₂ 、60%)を削減する。		
	その他の温室効果ガス	(CO ₂ 以外の温室効果ガスを年間3,000t-CO ₂ 以上排出している場合は必須)		
	温室効果ガス(上記合計)	平成14年度(2002年)～平成16年度(2004年)の連続3ヵ年のCO ₂ 排出量の平均値33,808t-CO ₂ を基準として、平成22年度(2010年)から平成26年度(2014年)までの5年間の合計で63,438t-CO ₂ (基準排出量に比較して、年平均12,688t-CO ₂ 、37.5%)を削減する。		
目標削減率の概要 (C類事業所のみ)	基準排出量		t-CO ₂ /年	平均削減率
	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO ₂ /年	

5 事業所の温室効果ガス排出量（Bの事業所のみ記載）

(1) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

			計 画 前 年	計 画 期 間					
			提 出 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
CO ₂	エネルギー起源CO ₂	目標		16,200	15,900	15,500	17,800	16,800	
		実績	15,065						
	非エネルギー起源CO ₂	目標		4,900	4,600	4,400	4,900	4,600	
		実績	2,067						
	CO ₂ の合計	目標		21,100	20,500	19,900	22,700	21,400	
		実績	17,132						
その他温室効果ガス	メタン	目標							
		実績							
	一酸化二窒素	目標							
		実績							
	ハフルオロカーボン	目標							
		実績							
	パフルオロカーボン	目標							
		実績							
	六フッ化硫黄	目標							
		実績							
	その他温室効果ガス合計	目標							
		実績							
温室効果ガスの合計		目標		21,100	20,500	19,900	22,700	21,400	
		実績	17,132						

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況

CO₂換算（t-CO₂/〇〇）

エネルギー起源CO ₂			計 画 前 年	計 画 期 間					
			提 出 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	単位	目標		0.231	0.221	0.212	0.223	0.207	
		実績	0.2160						
活動規模の指標	●	生産量	1tあたり	69,754					
	○	出荷額	〇〇あたり						
	○	従業員数	〇〇あたり						
	○	床面積	〇〇あたり						
	○	() (*自由記載)	〇〇あたり						

※〇〇には活動規模の指標となる単語を記入してください。例 m、t、百万円 など

※その他の原単位（例：非エネルギー起源を含んだすべてのCO₂ など）を記載したい場合は、別紙4号に記載してください。

No	対策の区分			対策名称	実施時期	備考
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	蒸気流量計の設置による蒸気使用量管理 蒸気元バルブ開閉管理による無駄の削減	平成22年度	
2	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管・バルブ類の保温材補修 ドラム加温槽からの蒸発防止策実施	平成21年度	
3	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気熱源からヒートポンプ方式の温水・冷水供給	平成24年度	
4	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気吸収式冷凍機から電気式モーター・チラー方式に更新	平成24年度	
5	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	ボイラーの集中管理から分散型への変更による蒸気放熱ロスの低減	平成25年度	
6	340500	発電専用設備、コージェネレーション設備	34_熱の動力等への変換の合理化に関する措置	コージェネレーションシステムの排熱利用（蒸気、温水発生）による重油削減	平成19年度	
7	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	末端での力率補正による電力の有効活用	平成24年度	
8	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エア・漏れ対策とコンプレッサーの効率的稼働	平成22年度	
9	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	冷却水循環系統の変更による送水ポンプの稼働率制御	平成24年度	
10	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯・蛍光灯からLED照明への変更	平成23年度	
11						
12						
13						
14						
15						

※希望者のみ記載

A large yellow rectangular area intended for optional comments or evaluations. The text '※希望者のみ記載' is located at the top left corner of this area.